



613-000684 Rev.A 061208

ブロードバンドVPNルーター

CentreCOM® **AR260S V2**

取扱説明書

CentreCOM AR260S V2
取扱説明書

アライドテレシス株式会社

安全のために

必ずお守りください

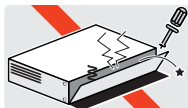


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

本製品に付属の AC アダプターは 100V で動作します。



電圧注意

付属の AC アダプター以外で使用しない

火災や感電の原因となります。必ず、付属の AC アダプターを使用してください。



付属品を使い

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

ACアダプターのコードを傷つけない

火災や感電の原因となります。



傷つけない

本書に記載されていない方法による設置をしないでください

本書に従って正しい設置を行ってください。不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいねいに

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

この度は、「CentreCOM AR260S V2」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

パッケージの確認

最初に梱包箱の中身を確認してください。

- CentreCOM AR260S V2 本体（1 台）
- 専用 AC アダプター（1 個）
- UTP ケーブル（1 本、1m、エンハンスト・カテゴリ 5、ストレートタイプ）
- 結束バンド（1 本）
- 取扱説明書（1 冊、本書）
- 英文製品仕様書（1 枚）
- CD-ROM（1 枚）
- シリアル番号シール（2 枚）
- 保証書（1 枚）



注意

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

アイコンについて

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

図 0.0.1 アイコンの意味

本書について

本書は、安全上の注意、各部の名称や働き、設置や配線、プロバイダーへの接続のための設定など、本製品を使用する上で最も基本的なことを説明したマニュアルです。

本製品を正しくご使用いただくため、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また、必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

付属の CD-ROM について

付属の CD-ROM には、以下のマニュアルが収録されています。CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに挿入すると、自動的に HTML ファイルが表示されますので、表示内容に従って操作してください。

• リファレンスマニュアル

本製品が表示する Web 画面の各項目や、項目が取るパラメーターの詳細が記載されています。本書の内容を含む、本製品の機能に関する完全な情報が記載されています。

製品名

本書では、「CentreCOM AR260S V2」を「本製品」と略します。

目次

安全のために	2
はじめてに	4
パッケージの確認	4
本書について	4
付属のCD-ROMについて	4
製品名	4
アイコンについて	4
目次	5
1 製品概要	5
1.1 特長	5
オプション	5
1.2 各部の名称と機能	5
2 設置	7
設置場所に関する注意	7
2.1 設置穴による壁面への設置	8
壁面設置に関する注意	8
設置手順	8
3 配線	9
準備	9
ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムなどの接続	9
コンピューターの接続	9
AC アダプターの接続	10
DC コードの固定	10
カスケード接続	10
4 本製品の設定	10
設定の方針	10
設定	10
5 トラブルシューティング	15
A 付録	16
A.1 製品仕様	16
A.2 工場出荷時設定への初期化	17
A.3 JavaScript の有効化	18
A.4 コンピューターの設定	18
Windows XP の設定	18
Windows 2000 の設定	20
Mac OS X (10.3.4) の設定	21
B 保証と修理	22
アライドテレシス株式会社 修理受付窓口	22
保証の制限	22
C ユーザーサポート	22
アライドテレシス株式会社 サポートセンター	22
C.1 サポートに必要な情報	22
一般事項	22
回線について	22
お問い合わせ内容について	22
ネットワーク構成について	22

1 製品概要

1.1 特長

本製品は、VPN (IPsec) 対応の SOHO 向けブロードバンド・アクセスルーターです。暗号処理用のハードウェアエンジンを搭載しており、VPN 処理のためのプロセッサの搭載により、高速 VPN 環境を提供します。

- FTTH や xDSL、CATV などのブロードバンド系サービスに対応 (PPPoE、DHCP、固定 IP 設定)
- IPsec (3DES、DES) による VPN
- ステートフル・インスペクション型ファイアウォール
- パケットフィルタリング
- NAT/ENAT、ポートフォワーディング機能
- SNMP クライアント、ログや統計情報の表示、SNMP エージェント
- DHCP サーバー / クライアント機能
- PPPoE マルチセッションに対応 (2 セッション)
- Web ブラウザーによる簡単設定

オプション

- マグネット Kit M
- 19 インチ・ラックマウントキット AT-RKMT-J08

1.2 各部の名称と機能



図 1.2.1 前面

① POWER LED

LED	色	状態	表示の内容
POWER	緑	点灯	電源が供給されています。
		消灯	電源が供給されていません。

② SYSTEM LED

LED	色	状態	表示の内容
SYSTEM	橙	点灯	異常が発生しています (起動時の一時的な点灯、点滅は正常です。また、起動時の LED の消灯は、起動の完了を示すものではありません)。
		点滅	フラッシュメモリの読み出し、書き込みを実行しています。
		消灯	正常です。

③ STATUS LED (未サポート)

お客様はご使用になれません。



本書「A.2 工場出荷時設定への初期化」(p.17)

④ WAN/ETHO LED

LED	色	状態	表示の内容
L/A	緑	点灯	100Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	100Mbpsでパケットの送受信が行われています。
	橙	点灯	10Mbpsでリンクが確立しています。
		点滅	10Mbpsでパケットの送受信が行われています。
-		消灯	リンクが確立していません。
D/C	緑	点灯	Full Duplex (全二重) です。
		点滅	コリジョンが発生しています。
		消灯	Half Duplex (半二重) です。

⑤ LAN1 ~4 LED

WAN/ETHO LED と同様です。

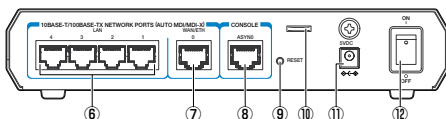


図 1.2.2 背面

⑥ LAN ポート

LAN 側の UTP ポートです。4 つのポートがあり、10BASE-T、100BASE-TX に対応しています。LAN 側の各ポート間の通信はスイッチングにより行われます。通信モードは、オートネゴシエーションが設定されています。MDI/MDI-X 自動切替機能が有効で、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わらず、ストレートまたはクロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

⑦ WAN ポート

WAN 側の UTP ポートです。10BASE-T、100BASE-TX に対応しています。通信モードは、オートネゴシエーションが設定されています。MDI/MDI-X 自動切替機能が有効で、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) に関わらず、ストレートまたはクロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

⑧ CONSOLE ポート (未サポート)

弊社メンテナンス用のコンソールポートです。お客様はご利用になれません。

⑨ リセットスイッチ

電源スイッチ、SYSTEM LED を組み合わせた操作により、本製品を工場出荷時設定に初期化するスイッチです。

⑩ ケーブル固定リング

DC ケーブルを固定するリングです。

⑪ DC ジャック

AC アダプターの DC プラグを接続するジャックです。

⑫ 電源スイッチ

本製品に供給される電源をオン、オフするためのスイッチです。

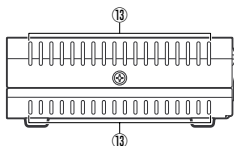


図 1.2.3 側面

⑬ 通気口

換気により、本体内部の熱を逃がすための通気口です。



通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

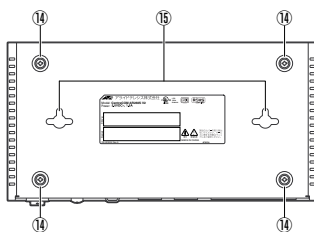


図 1.2.4 底面

⑭ ゴム足

水平面に設置するためのゴム足です。

⑮ 壁面設置穴

本製品を壁面に設置するためのダルマ穴です。

2 設置

本製品は、次の4つの方法による設置ができます。

・ゴム足による設置

本製品を卓上や棚などの水平な場所に設置する場合は、底面のゴム足を使用して設置してください（ゴム足はあらかじめ底面に装着済みです）。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷つきを防止します。

・設置穴による壁面への設置 (p.8)

・マグネットによる設置

オプション（別売）のマグネットKit Mを使用すると、本製品を金属面に吸着させることができます。OAデスクの横などの金属面への設置に便利です。

本製品は必ず下図の○の方向に設置してください。

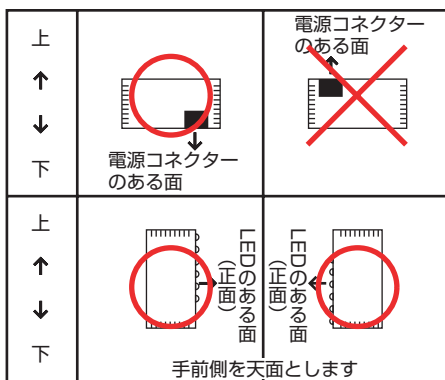


図2.0.1 設置可能な方向



必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

・19インチラックへの設置

本製品を19インチラックに取り付ける場合は、オプション（別売）の19インチ・ラックマウントキット(AT-RKMT-J08)をご使用ください。本製品は、水平設置型、垂直設置型のどちらでも設置可能です。



不適切な方法による設置は、正常な放熱ができなくなり、火災、故障の原因となります。

水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合には直ちに使用を止め、弊社サポートセンターにご連絡ください。



ラックマウントキットなど、弊社純正品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。また、以下の点にもご注意ください。

設置場所に関する注意

- ・電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- ・テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- ・傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- ・底面を上にして設置しないでください。
- ・十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- ・本製品の上にもものを置かないでください。
- ・直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- ・本製品は屋外ではご使用になれません。
- ・コネクタの端子にはさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクタの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

2.1 設置穴による壁面への設置

充分な厚さのある木製の壁面にタッピングスクリューを使用して、製品前面を上向きに設置する例を示します。取り付けのためのタッピングスクリューなどは付属しておりませんので、お客様にて別途ご用意くださいますようお願いいたします。



他の構造の壁面に設置する場合は、壁面の構造に合わせて、適切な取り付け工事を行ってください。不適切な工事を行った場合、落下の原因となり危険です。専門の知識を持った工事業者に依頼することをお勧めいたします。

壁面設置に関する注意

- 設置面の状態、取り付けネジによっては、十分な強度を得られない場合があります。
- 壁面への設置は、本製品やケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。
- 機器を高所に取り付けしないでください。落下によるケガや機器破損の原因となるおそれがあります。
- 振動や衝撃の多い場所、および不安定な場所には設置しないでください。落下によるケガや機器破損の原因となることがあります。

設置手順

- 1 電源コンセントの位置や、AC アダプターの DC コードの長さ、UTP ケーブルの引き回し方法、壁面の構造上の強度などを考慮して、本製品の設置場所を決定してください。
- 2 図 2.1.2、図 2.1.4 を参考にして、適切なサイズのタッピングスクリュー 2 本を用意してください。
- 3 本製品は図 2.0.1 (p.7) の方向に取り付けることができます。取り付ける向きを決め、壁面に 2 本のタッピングスクリューをねじ込みます。

- 製品の前面を上向きにして取り付ける場合、水平方向に 140mm の間隔でねじ込んでください。
- 製品の左側面を上向きにして取り付ける場合、垂直方向に 140mm の間隔でねじ込んでください。



図 2.1.1 タッピングスクリューの間隔

タッピングスクリューの頭と壁面の間隔が 1 ~ 2mm となるようにねじ込んでください。

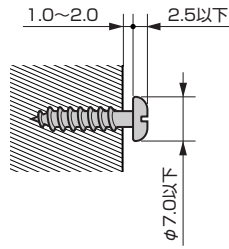


図 2.1.2 頭の飛び出し寸法

- 4 本製品底面のゴム足を取り外してください。
- 5 2 つのダルマ穴を、壁面のタッピングスクリューの頭に通し、穴の細い部分までずらして固定してください。

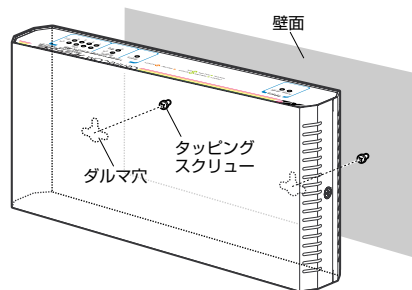


図 2.1.3 ダルマ穴をスクリューの頭に通す

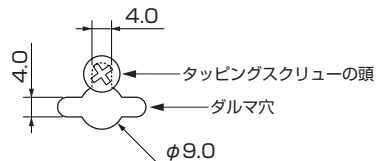


図 2.1.4 細い部分までずらして固定

3 配線

図 3.0.1 に基本的なネットワーク構成を示します。図 3.0.1 をご覧になり、以下の手順で機器の接続を行ってください。



雷が発生しているときは、本製品の設置や、ケーブルの配線を行わないでください。落雷により感電する恐れがあります。

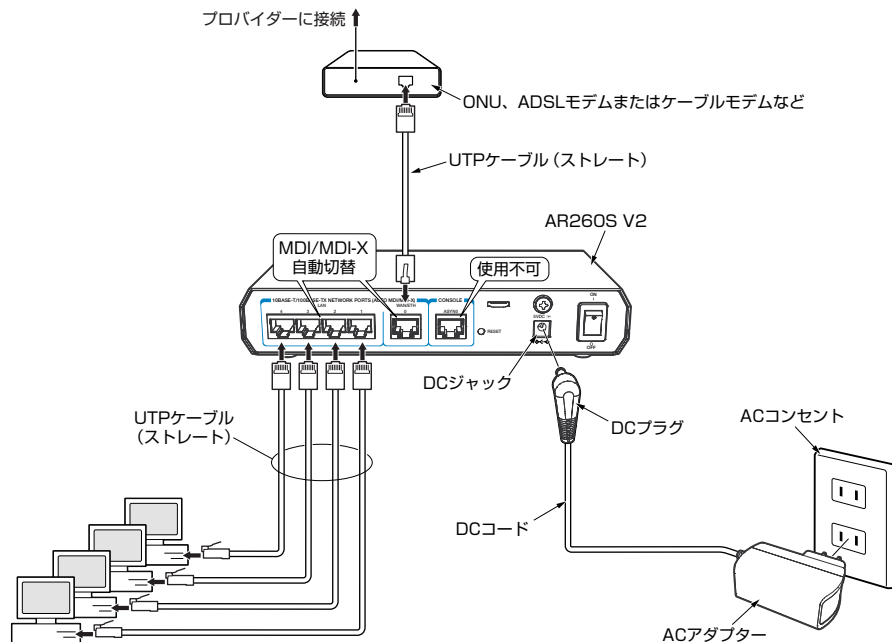


図 3.0.1 基本的なネットワーク構成

準備

- 以下の手順は、回線から ONU (Optical Network Unit)、ADSL モデムまたはケーブルモデムまでの工事が完了しているものとして説明します。
- 本製品に接続するコンピューターで TCP/IP プロトコルが使用できるようにしておきます。

参照 本書「A.4 コンピューターの設定」(p.18)

- 適切な長さの UTP ケーブルを必要な本数だけご用意ください。
 - 100BASE-TX の場合
カテゴリー 5 以上、最長 100m
 - 10BASE-T の場合
カテゴリー 3 以上、最長 100m

ヒント 本製品の全ポートは MDI/MDI-X 自動切替機能を持つので、ストレートまたはクロスのどちらのタイプの UTP ケーブルを使用してもリンクが確立しますが、本書ではストレートタイプを使用します。

ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムなどの接続

- 1 UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、WAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTP ケーブルのもう一端を、ONU、ADSL モデムまたはケーブルモデムに接続してください。

コンピューターの接続

- 1 UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、LAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTP ケーブルのもう一端を、コンピューターのネットワークポートに接続してください。
- 3 手順 1、手順 2 を繰り返し、すべてのコンピューターを本製品に接続してください。

ACアダプターの接続

- 1 ACアダプターのDCプラグを、本製品のDCジャックに接続してください。
- 2 ACアダプターのACプラグをACコンセントに接続してください。

DCコードの固定

壁面に設置する場合など、DCプラグが抜け落ちないように、結束バンドでDCコードを固定してください。

- 1 結束バンドをコード固定リングに通してください。
- 2 付属の結束バンドを使い、DCコードをコード固定リングに固定してください。

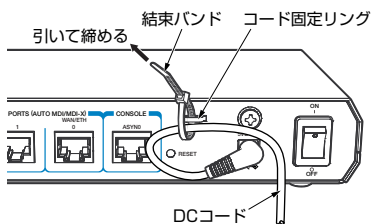


図 3.0.2 DCコードの固定

カスケード接続

本製品には、4台までのコンピューターを接続できますが、更に多くのコンピューターを接続したい場合は、スイッチやHUBをカスケード接続することができます。

- 1 UTPケーブル先端の爪部分を下側に持ち、任意のLANポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
- 2 UTPケーブルのもう一端を、カスケード接続するスイッチまたはHUBの任意のポートに接続してください。

4 本製品の設定

図 4.0.2、図 4.0.4 に個人向けの端末型インターネット接続のネットワークの模式図を示します。この模式図にしたがい、「セットアップウィザード」を使用した本製品の設定手順を説明します。



ファイアウォールやVPNなどの高度な設定については、CD-ROMに収録の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

設定の方針

- ファイアウォールを有効にし、外部からの不正アクセスを遮断しつつ、内部からは自由にインターネットへのアクセスができるようにします。
- ENAT機能を利用して、LAN側ネットワークのプライベートIPアドレスを、プロバイダーから与えられたグローバルIPアドレスに変換します。これにより、LANに接続された複数のコンピューターからインターネットへの同時アクセスが可能となります。
- DHCPサーバー機能を有効にし、LANに接続されたコンピューターにIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーアドレスの情報を提供します。
- DNSリレー機能を有効にし、LAN側のコンピューターからのDNSリクエストを、プロバイダーのDNSサーバーに転送します。前述のDHCPサーバーの設定により、LAN側のコンピューターに対しては、本製品自身のIPアドレスを提供します。

設定

- 1 本製品の電源スイッチをオンにしてください。



電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

- 2 コンピューターを起動してください。



あらかじめ「コンピューターの設定」(p.18)を実施しておく必要があります。

- 3 Windows版のInternet Explorer^{*1}を起動し、アドレスに「http://192.168.1.1」と入力して「移動」をクリックしてください。



図 4.0.1 本製品へのアクセス

*1 本製品の設定は、Windows版のInternet Explorer Ver.6をご使用ください。

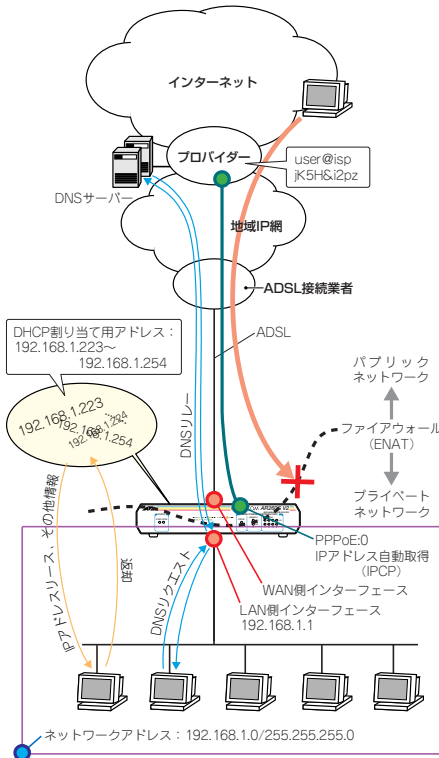


図 4.0.2 PPPoE による接続の模式図

- 4 次のダイアログボックスが表示されたら、「ユーザー名」に「manager」、「パスワード」に「friend」と入力し、「OK」をクリックしてください。



図 4.0.3 本製品へのログイン

ここで使用するユーザー名「manager」、パスワード「friend」は、プロバイダーから提供されるものではありません。

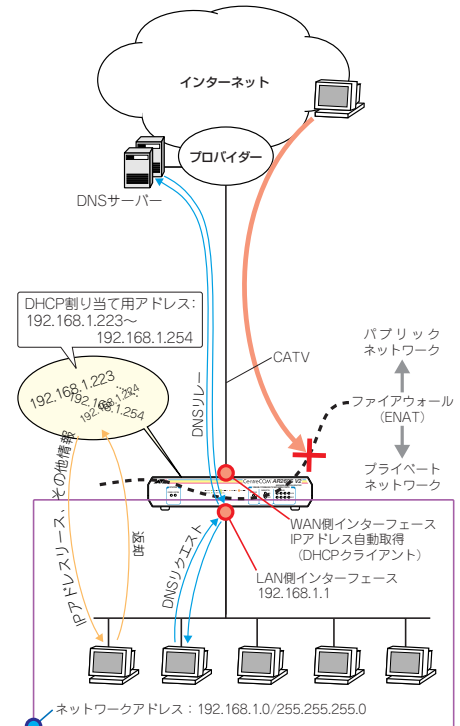


図 4.0.4 Ethernet による接続の模式図

- 5 「セットアップウィザード」が開始されます。「次へ」をクリックしてください。

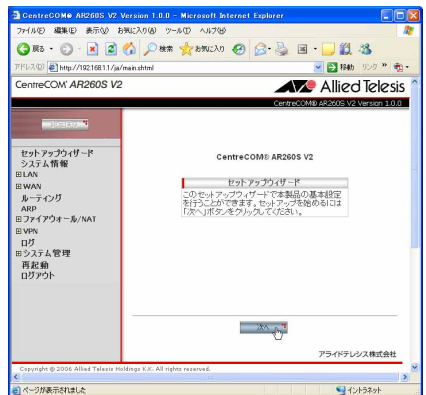


図 4.0.5 セットアップウィザードの開始

●管理者パスワード

- 6 管理者 (manager) の初期パスワードを変更します。「現在の管理者パスワード」に「friend」を入力し、「新しいパスワード」と「パスワードの確認」に新たなパスワードを入力してください。入力を終えたら「適用」をクリックしてください。更に「次へ」をクリックしてください。

設定管理クライアント

ID 新規作成

グループ形式 IPアドレス

IPアドレス

追加 変更 ヘルプ

パスワード

現在の管理者パスワード

管理用パスワード パスワードの確認

ユーザパスワード パスワードの確認

適用 ヘルプ

設定管理クライアントリスト

ID グループ形式 グループアドレス

削除

前へ 次へ

図 4.0.6 管理者のパスワードの変更



初期パスワードのまま運用しないでください。
セキュリティホールとなる可能性があります。
注意

●SNMP

- 7 SNMP マネージャーに提供する情報を設定します (デフォルトでは SNMP エージェントは「無効」です)。変更が不要であれば、「次へ」をクリックしてください。

図 4.0.7 システム情報 (SNMP)

●時間の同期

- 8 現在の「日付」、「時刻」を入力し、「適用」をクリックしてください。日本の「タイムゾーン」は「GMT+09:00」です。時刻を同期するサーバーとして、あらかじめ 4 か所の実存する SNTP サーバーが設定されていますが、必要であれば変更してください。

タイムゾーン設定

日付
2006-12-05 (年:月:日 例:2006-12-31)

時刻
18:45:45 (時:分:秒)

タイムゾーン
GMT+09:00 東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツ

SNTPサービスの設定

SNTPサーバ1
133.243.238.243

SNTPサーバ2
133.243.238.244

SNTPサーバ3
210.173.160.27

SNTPサーバ4
210.173.160.57

更新間隔
60 分

適用 ヘルプ

前へ 次へ

図 4.0.8 時間の同期

以上の設定が完了したら、「次へ」をクリックしてください。



ヒント

ログの管理のためには、本製品が正確な時間を保持している必要があります。時刻を SNTP サーバーに同期する場合は、「システム管理」の「サービスの有効 / 無効」で「SNTP」を「有効」にしてください。また、本製品を再起動すると、保持時間は「2001-01-01 9:00:00」に戻ります。

● LAN側インターフェース

- 9 LAN側インターフェースのIPアドレス、サブネットマスクを設定します。デフォルトは「192.168.1.1」、「255.255.255.0」です。変更が不要であれば、「次へ」をクリックしてください。

IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0

図 4.0.9 LAN側インターフェースの設定

● DHCPサーバー

- 10 DHCPサーバーの設定を行います。デフォルトでは「192.168.1.223 ~ 192.168.1.254」の32個のIPアドレスがプールされています。変更が不要であれば、「次へ」をクリックしてください。

IPアドレスプール	192.168.1.223 - 192.168.1.254
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
リース期限	00:12:00
プライマリDNSサーバ	192.168.1.1 (オプション)
セカンダリDNSサーバ	(オプション)
プライマリWINSサーバ	(オプション)
セカンダリWINSサーバ	(オプション)

図 4.0.10 DHCPサーバーの設定



「システム管理」→「サービスの有効 / 無効」で「DHCPサーバー」のサービスを停止できます。

- 11 WAN側インターフェースを設定します。「接続モード」で「PPPoE」を選択した場合は、手順 12に進んでください。「DHCP」を選択した場合は、手順 13に進んでください。

● WAN側インターフェース (PPPoE)

- 12 PPPoEを使用するプロバイダーとの接続は、「接続モード」で「PPPoE」を選択します。

接続モード	PPPoE
デフォルトゲートウェイ	pppoe0
セッションID	pppoe0
アンナバード PPPoE	有効
ユーザー名	user@isp
パスワード	*****

図 4.0.11 PPPoEの設定の例

- ・接続モード：「PPPoE」
- ・デフォルトゲートウェイ：「pppoe0」を選択してください。
- ・セッションID：pppoe0が表示されていることを確認してください。
- ・個人向けのご契約の場合、アンナバード PPPoE：「無効」を選択してください。
- ・IPアドレス：プロバイダーから指定された IP アドレスを入力してください。指定されなかった場合は、空欄のままにしてください。
- ・ユーザー名：プロバイダーから指定されたユーザー名を入力してください。
(例)「user@isp」
- ・パスワード：プロバイダーから指定されたパスワードを入力してください。
(例)「jK5H&i2pz」
- ・サービス名：プロバイダーから指定されたサービス名を入力してください。指定されなかった場合は、空欄のままにしてください。

- AC（アクセスコンセントレーター名）：プロバイダーから指定された AC を入力してください。指定されなかった場合は、空欄のままにしてください。

- DNS オプション：「自動取得」（デフォルト）を選択すると、プロバイダーから自動取得した DNS サーバーアドレスを使用します。「固定設定」を選択すると、次の「プライマリ DNS サーバー」「セカンダリ DNS サーバー」に入力したアドレスを使用します。

- プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー：前述の「DNS オプション」を「固定設定」にすると、これらの欄が現れますので、DNS サーバーのアドレスを入力してください。

- MSS クランプ：通常は「有効」、MSS の値「40」バイトのままご使用ください。

- 接続オプション：通常は「キーブアライブ」（切断が発生したら自動的に接続する）、エコー送信間隔「60」秒のままご使用ください。

各項目の入力を終わったら、「適用」をクリックしてください。

「適用」をクリックして暫くすると、「現在の設定」が Web 画面の下の方に表示されます（表示画面が狭い場合はスクロールしてください）。

現在の設定	
基本設定が完了しました。現在の設定は以下のとおりです。	
LAN設定	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCP	有効
WAN設定	
WANのスピード	Autonegotiation : 100BaseTX full duplex
接続モード	PPPoE
デフォルトゲートウェイアドレス	pppoe0
pppoe0	
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.200
PEERのアドレス	10.1.1.5
プライマリDNSサーバ	10.1.1.4
セカンダリDNSサーバ	10.1.2.4
サブネットマスク	255.255.255.255
接続オプション	キーブアライブ
エコー送信間隔	60
pppoe1	
接続状況	未接続
IPアドレス	
PEERのアドレス	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
サブネットマスク	
接続オプション	キーブアライブ
エコー送信間隔	60

図 4.0.12 PPPoE の接続状況の例

手順 14 に進んでください。

● WAN 側インターフェース (DHCP)

13 DHCPを使用するプロバイダーとの接続は、「接続モード」で「DHCP」を選択します。

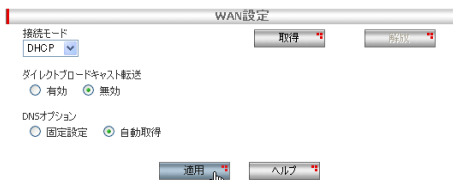


図 4.0.13 DHCP クライアントの設定の例

- 接続モード：「DHCP」

- DNS オプション：「自動取得」（デフォルト）を選択すると、プロバイダーから自動取得した DNS サーバーアドレスを使用します。「固定設定」を選択すると、次の「プライマリ DNS サーバー」「セカンダリ DNS サーバー」に入力したアドレスを使用します。

- プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー：前述の「DNS オプション」を「固定設定」にすると、これらの欄が現れますので、DNS サーバーのアドレスを入力してください。

各項目の入力を終わったら、「適用」をクリックしてください。

「適用」をクリックして暫くすると、「現在の設定」が Web 画面の下の方に表示されます（表示画面が狭い場合はスクロールしてください）。

現在の設定	
基本設定が完了しました。現在の設定は以下のとおりです。	
LAN設定	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCP	有効
WAN設定	
WANのスピード	Autonegotiation : 100BaseTX full duplex
接続モード	DHCP
デフォルトゲートウェイアドレス	10.1.1.5
プライマリDNSサーバ	10.1.1.4
セカンダリDNSサーバ	10.1.2.4
接続状況	接続
IPアドレス	10.1.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0

図 4.0.14 DHCP クライアントの接続状況の例

手順 14 に進んでください。

●設定の保存

- 14 画面左の「設定保存」ボタンをクリックしてください。設定が保存されると「設定保存」の文字がグレイアウトします。

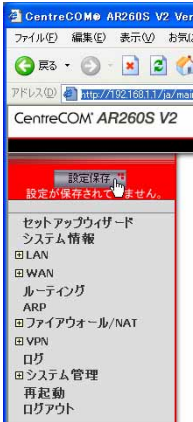


図 4.0.15 設定の保存

●AR260S V2 からのログアウト

- 15 画面左のメニューから「ログアウト」をクリックしてください。

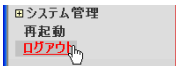


図 4.0.16 本製品からのログアウト

次の画面が表示されたら「適用」をクリックしてください。

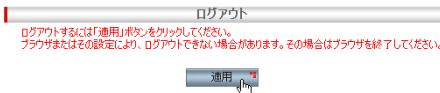


図 4.0.17

- 16 「はい」をクリックしてください。



図 4.0.18 ログアウトの確認

●接続の確認

- 17 インターネットにアクセスできるか確認してください。コンピューターの画面で Web ブラウザーを起動し、目的の URL を指定します。

5 トラブルシューティング

設定画面がうまく表示されません

- Web ブラウザーとして Internet Explorer Ver.6 を使用してください。
- 「A.3 JavaScriptの有効化」(p.18)をご覧になり Internet Explorer の JavaScript 機能を有効にしてください（通常、初期設定では有効になっています）。

POWER LEDは点灯するが、正しく動作しません

- 電源をオフにした後、すぐにオンしていませんか？ 電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

リセットスイッチを押しても再起動しません

- 本製品は、リセットスイッチを押しても再起動しません。スイッチによる再起動は、電源スイッチをオフにした後、しばらく間をあけてから、電源スイッチをオンにしてください。

A 付録

A.1 製品仕様

表 A.1.1 ハードウェア仕様

準拠規格	IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX、IEEE802.3x Flow Control
電源部	定格入力電圧 AC100-120V 定格入力電流 0.5A 入力電圧範囲 AC90-132V 定格周波数 50/60Hz 最大入力電流 0.12A (実測値) 平均消費電力 5.3W (最大 6.2W) 平均発熱量 19kJ/h (最大 22kJ/h)
環境条件	動作時温度 0～40℃ 動作時湿度 80%以下 (結露なきこと) 保管時温度 -20～60℃ 保管時湿度 95%以下 (結露なきこと)
外形寸法	210 (W) × 107 (D) × 38 (H) mm (突起部含まず)
質量	690g (本体のみ)
ポート	WAN 10BASE-T/100BASE-TX × 1 (オートネゴシエーション、MDI/MDI-X 自動切替) LAN 10BASE-T/100BASE-TX × 4 (オートネゴシエーション、MDI/MDI-X 自動切替) CONSOLE 弊社メインテナンス用 (お客様はご使用になれません)
スイッチ部 (LAN)	スイッチング方式 スタ&フォワード パケットバッファ 128KByte MAC アドレス登録数 1K (最大) MAC アドレス保持時間 約 300 秒
CPU	PowerPC 266MHz
メモリー容量	メインメモリー 64MByte フラッシュメモリー 16MByte
適合規格	EMI 規格 VCCI クラスB 安全規格 UL60950-1 CSA-C22.2 No.60950-1

表 A.1.2 ソフトウェア仕様

ルーティングプロトコル	IPv4
ルーティング方式	スタティック
WAN サービス	ADSL、CATV、FTTH などの各種のブロードバンド回線サービス
機能	PPPoE (2セッション) スタティック NAT、ダイナミック NAT、ENAT、インターフェース ENAT、ポートフォワーディング、パススルー DHCP (サーバー、クライアント)、DNS リレー ファイアウォール (ステートフルインスペクション、Inbound アクセス制御、Outbound アクセス制御、セルフアクセス制御) VPN (IPsec (IKE/ISAKMP)、暗号 (3DES、DES)、認証 (SHA-1、MD5))
管理機能	Web ブラウザーによる設定 ping、SNTP クライアント、SNMP エージェント、工場出荷時設定への初期化、設定のバックアップと復元、ファームウェアの更新 統計情報 (LAN、WAN、ファイアウォール、NAT、VPN) ログ (Web ブラウザーへの表示および Syslog サーバーへの送信、出力項目: IP、DHCP、PPP、VPN、ETH、NAT、ファイアウォール、システム、アプリケーション)
推奨クライアントコンピューター接続数	20 台
スタティックルートの最大登録数	15 件
推奨同時 VPN トンネル数	10

表 1.1.3 工場出荷時の設定内容

LAN	IP
	IP アドレス: 192.168.1.1 サブネットマスク: 255.255.255.0 ダイレクトブロードキャスト転送: 無効
DHCP	IP アドレスプール: 192.168.1.223 - 192.168.1.254 サブネットマスク: 255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ: 192.168.1.1 リース期限: 12 時間 プライマリー DNS サーバ: 192.168.1.1 セカンダリー DNS サーバ: 空白 (未設定) プライマリー WINS サーバ: 空白 (未設定)

表 1.1.3 工場出荷時の設定内容 (続き)

セカンダリー WINS サーバ: 空白 (未設定)
固定 DHCP クライアント: 未設定
WAN
WAN
PPPoE (pppoe0, pppoe1) (デフォルト)
アンナンバード PPPoE: 無効
DNS オプション: 自動取得
MSS クランプ: 有効
クランプ値: 40 バイト
接続オプション: キープアライブ
エコー送信間隔: 60 秒
DHCP
ダイレクトブロードキャスト転送: 無効
DNS オプション: 自動取得
固定 IP
ダイレクトブロードキャスト転送: 無効
ファイアウォール/NAT
ファイアウォール
Inbound アクセス: 未設定 (遮断)
Outbound アクセス: すべて透過
NAT 設定
NAT
eth0, pppoe0, pppoe1: インターフェース ENAT (送信元: すべて、宛先: すべて、プロトコル: すべて)
NAT プール: 未設定
アドバンスト設定
セルフアクセス
ステルスモード: 無効
セルフアクセス制御設定: LAN (eth1) 未設定、 WAN (eth0, pppoe0, pppoe1) UDP 500 通過
タイムアウト設定
DefaultTcp 600 秒、DefaultUdp 60 秒、 DefaultIcmp 60 秒、TcpReset 20 秒
VPN
VPN 接続: 未設定
ログ
システムログ設定
ログ種類
IP: 通知、DHCP: 通知、PPP: 通知、VPN: 通知、 ETH: 通知、NAT: 通知、ファイアウォール: 通知、システム: 通知、アプリケーション: 通知
ログサーバ IP アドレス: 空白 (未設定)
システム管理
サービスの有効/無効
有効となっているサービス: ファイアウォール (セル フアクセス、Inbound/Outbound アクセス制御、 NAT が有効)、VPN、DHCP サーバ、DNS リ レー、リセットスイッチによる初期化

表 1.1.3 工場出荷時の設定内容 (続き)

無効となっているサービス: SA の強制確立、 SNTP クライアント
設定管理 / パスワード
設定管理クライアント: 空白 (未設定)
パスワード
管理者のユーザー名 (変更不可): manager
管理者パスワード: friend
一般ユーザーのユーザー名 (変更不可): guest
一般ユーザーのパスワード: guest
システム情報 (SNMP エージェント)
システム名 (sysName): Router
システムロケーション (sysLocation): 空白 (未 設定)
連絡先 (sysContact): 空白 (未設定)
タイムゾーン設定
タイムゾーン設定
タイムゾーン: GMT+9:00
SNTP サービスの設定
登録済み SNTP サーバ: 133.243.238.243、 133.243.238.244、210.173.160.27、 210.173.160.57
更新間隔: 60 分
SNMP
SNMP エージェント: 無効
コミュニティー名: public
通知先アドレス (トラップホスト): 空白 (未設定)

A.2 工場出荷時設定への初期化

本製品の設定画面を表示し、「システム管理」→「システムの設定」→「デフォルト設定」の順にクリックして、以後表示されるメッセージにしたがってください。

または、電源スイッチとリセットスイッチを以下の手順で操作してください。

- 1 本製品の電源スイッチをオフにして、しばらく待ってください。
- 2 リセットスイッチを押しながら、本製品の電源スイッチをオンにし、SYSTEM LED が短く 3 回点滅するまで、リセットスイッチを押し続けてください。



スイッチによる工場出荷時設定への初期化は、「システム管理」→「サービスの有効/無効」で禁止することができます。

A.3 JavaScriptの有効化

Internet Explorer (Ver.6) に以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみ JavaScript を有効にすることができます (他のセキュリティ設定に影響を与えません)。

- 1 Internet Explorer のメニューから「ツール」→「インターネットオプション」をクリックしてください。
- 2 「セキュリティ」タブをクリックしてください。「信頼済みサイト」を選択しておき、「サイト」ボタンをクリックしてください。



図 A.3.1 インターネットオプション

- 3 「http://192.168.1.1/」を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (http) を必要とする」のチェックを外してから、「追加」ボタンをクリックしてください。「Web サイト」欄に「http://192.168.1.1/」が表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。「信頼済みサイト」ダイアログボックスが閉じます。

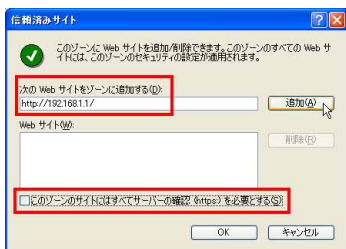


図 A.3.2 信頼済みサイトの登録

- 4 「インターネットオプション」ダイアログボックス (図 A.3.1) の「このゾーンのセキュリティレベル」が「カスタム」になっている場合は、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、「アクティブスクリプト」が「有効にする」になっていることを確認してください。

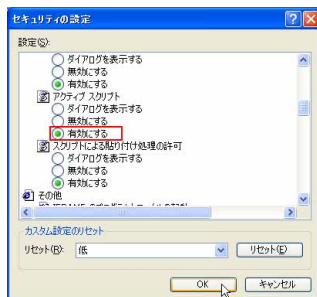


図 A.3.3 アクティブスクリプトは有効

- 5 「インターネットオプション」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックしてください。「インターネットオプション」ダイアログボックスが閉じます。
- 6 Internet Explorer を再起動してください。本製品に対してアクセスするときのみ、JavaScript が有効になります。

A.4 コンピューターの設定

本製品を利用したインターネット接続ができるように、お使いのコンピューターのネットワーク (TCP/IP) 設定を行います。ネットワーク設定は接続するすべてのコンピューターで行う必要があります。また、あらかじめネットワークアダプターの設定がされている必要があります。

Windows XP の設定

- 1 「コントロールパネル (クラシック表示)」の「ネットワーク接続」を開き、「ローカル エリア接続」をダブルクリックしてください。

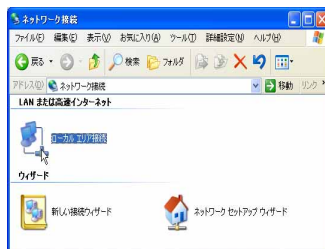


図 A.4.1 ネットワーク接続

2 「ローカル エリア接続の状態」ダイアログボックスで「プロパティ」をクリックしてください。



図 A.4.2 ローカルエリア接続の状態

3 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスのリストの中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。



図 A.4.3 ローカルエリア接続のプロパティ

4 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックしてください。

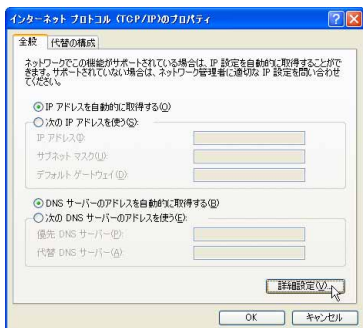


図 A.4.4 IP アドレスの設定

5 「TCP/IP 詳細設定」ダイアログボックスで「DNS」タブを選択し、下部の「この接続アドレスを DNS に登録する」のチェックを外してください。

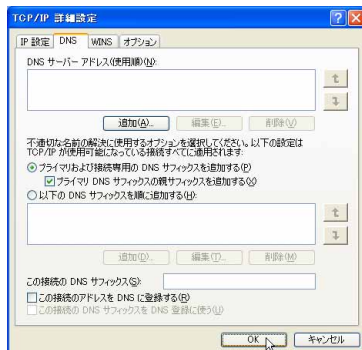



図 A.4.5 DNS の設定

 プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「以下の DNS サフックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

6 「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピューターを再起動してください。

Windows 2000 の設定

- 1 「コントロールパネル」の「ネットワークとダイヤルアップ接続」を開き、「ローカルエリア接続」をダブルクリックしてください。



図 A.4.6 ネットワーク接続

- 2 「ローカルエリア接続状態」ダイアログボックスで「プロパティ」をクリックしてください。

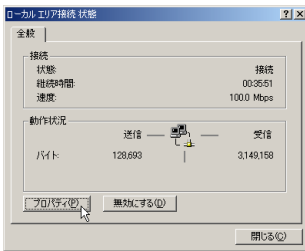


図 A.4.7 ローカルエリア接続の状態

- 3 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスのリストの中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

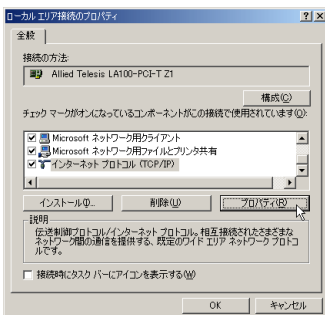


図 A.4.8 ローカルエリア接続のプロパティ

- 4 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックしてください。

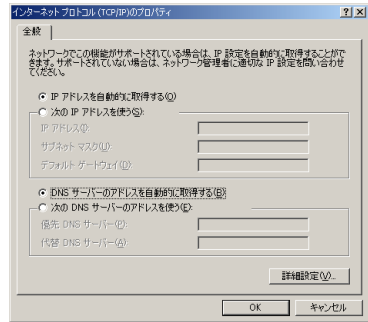


図 A.4.9 IP アドレスの設定

- 5 「TCP/IP 詳細設定」ダイアログボックスで「DNS」タブを選択し、下部の「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外してください。

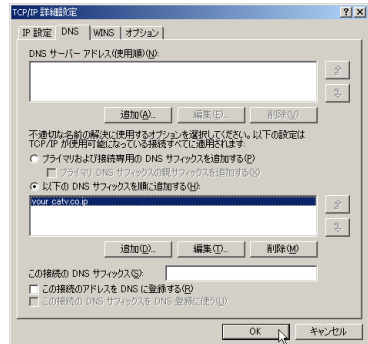



図 A.4.10 DNS の設定

 プロバイダーからドメイン名も指定されている場合、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

- 6 「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピュータを再起動してください。

Mac OS X (10.3.4) の設定

- 1 「システム環境設定」を起動して「ネットワーク」を選択し、「表示」ポップアップメニューから「ネットワークポート設定」を選んでください。「内蔵 Ethernet」以外のチェックボックスを全て外してください。

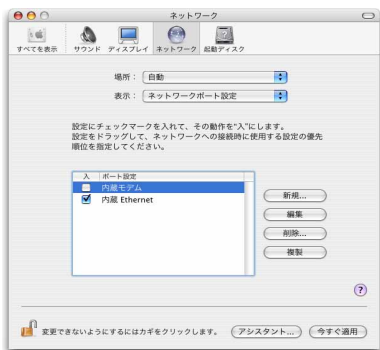


図 A.4.11 ネットワークポートの設定



Mac OS X の初期設定は「内蔵モデム」を優先して使用するようになっていますが、本製品接続時には「内蔵 Ethernet」以外のポートは使用しません。

- 2 「表示」ポップアップメニューから「内蔵 Ethernet」を選び、「TCP/IP」タブの「IPv4 を設定」ポップアップメニューから「DHCP サーバを参照」を選択してください。



図 A.4.12 内蔵 Ethernet の設定



プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「検索ドメイン」に指定されたドメイン名を入力してください。

- 3 「今すぐ適用」をクリックしてください。

B 保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel : ☎ 0120-860-332
携帯電話 / PHS からは : 045-476-6218
月～金曜日 (祝・祭日を除く)
9:00～ 12:00、13:00～ 17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害 (人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない) については、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

C ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-telecis.co.jp/support/info/>
Tel : ☎ 0120-860-772
携帯電話 / PHS からは : 045-476-6203
月～金曜日 (祝・祭日を除く)
9:00～ 12:00、13:00～ 18:00

C.1 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により弊社からの連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてもかまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先

- ご購入先

製品について

- 製品名 (AR260S V2)、製品のシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) をお知らせください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品底面のバーコードシールに記入されています。

(例) 

- ファームウェアバージョンをお知らせください。ファームウェアバージョンは、Web ブラウザーで本製品の設定画面にアクセスし、「システム情報」をクリックすると表示されます。

(例) V.1.0.0 B14

回線について

- ご契約のインターネットサービスプロバイダー (ISP) 名またはケーブルテレビ (CATV) 名をお知らせください。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況でまたどのような頻度で発生するのかをできる限り具体的に (再現できるように) お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

☆☆☆

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社 (弊社) の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2006 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Macintosh、Mac OS は、米国 Apple Computer Inc. の登録商標です。

初期に参照している NTP サーバーは、インターネットマルチフィード株式会社のもので

<http://www.jst.mfeed.ad.jp/>

その他、この文書に掲載しているソフトウェア、周辺機器、サービスの名称などは、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしがって正しい取り扱いをしてください。

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただけますようお願いいたします。

日本国外での使用について

弊社製品を日本国外へ持ち出されるお客様は、下記窓口へご相談ください。

Tel: ☎ 0120-860442

月～金（祝・祭日を除く）9:00 ～ 17:30

マニュアルバージョン

2006年12月 Rev.A 初版

